

講義名	日本語C (書く)			授業形態	
担当教員	石橋 明子	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

**主題と概要**

レポート・論文とはなにかといった基本的なことからレポート・論文が書けるようになるようになる。レポート・論文に必要な能力も身につける。

**到達目標**

大学生に必要なレポート・論文が書けるようになる。  
レポート・論文の書き方を学ぶことで、社会に通じる基本的能力を身につける。

**提出課題**

ワークシート、課題作文、ルーブリック等、授業中に指示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

**評価の基準**

期末試験（30％）、中間試験（10％）、課題の提出（30％）、授業参加度（30％）等による総合評価を行う。

**履修にあたっての注意・助言他**

出欠は毎回とる。全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。遅刻3回で1回欠席とする。15分以上の遅刻は、欠席とみなします。真面目かつ積極的な授業参加を望む。

**教科書**

.使用しない。

**参考図書**

.学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版 スキルを学ぶ21のワーク。 泉田てるみ、江亀珠緒、押木和子、勝亦あき子、実教出版 1320 9784407336

**その他**

授業内でプリントを配布します。

**授業計画**

1. イントロダクション：授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法、レポート・論文とは何か
2. レポート・論文のルール
3. レポート・論文のルール
4. レポート・論文の種類を知ろう
5. 報告型レポートを書いてみよう
6. フックレポートを書いてみよう
7. 論文を書いてみよう
8. 中間試験実施及びその解説
9. 読解力をつけよう
10. 読解力をつけよう
11. 要約をつけよう
12. 要約の仕組みを新聞から学ぼう
13. 批判的思考力をつけよう
14. 表現力をつけよう
15. 期末試験

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

各プリントに関して、語句の読みや意味を調べ、内容確認等の予習を、毎回120分行ってください。学修した項目を復習および課題を、毎回120分行ってください。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この科目を受講することで、仲間と協同して、物事を成し遂げることができるようになり、人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになります。日本文化を学ぶことで創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材となり、必要な日本語能力を身につけ、活用することができるようになります。知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材の育成につながります。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**